

事務事業名	園芸振興事業	事業期間	～	年度	係内番号	04
担当部署	産業経済部	農林課	農政係	連絡先	403	

計	政策番号	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	産業振興ビジョン	#N/A			
			基本計画②	01	産業振興ビジョン	#N/A			
			実行計画	01	農業振興ビジョン	0102	農業生産力の向上		

予算事業名	園芸振興事業費	会計コード	01	款	06	項	01	目	04	事業	01
-------	---------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 野菜花きの推進する園芸品目の多様化する品種に対して、当市での適合性、生産性等の試験栽培を委託し、優良品種の選定による販売強化を支援する。また、市花である「りんどう」の再興を図るため、優良な苗の提供を行う。
 JA信州諏訪での園芸関係の事業に対して、補助金を交付することで園芸振興を図る。

現状と背景
 (どうして)
 消費者ニーズの多様化により、各品目とも著しい品種の多様化が進んでいる。新たな品種の中から高冷地に適した品種を選び生産販売につなげていく。市花であるりんどうは、高齢化と栽培の難しさから生産者が減少しており、このままだといなくなる可能性がある。それを食い止めるために「りんどう再興プロジェクト」を行う。また、セルリーとパセリの諏訪地域オリジナル品種を絶えることのないように継承していく。

目的
 受益者
 (誰のために)
 市内農家
 対象
 対象
 (直接働きかける)
 市内農家、JA、JAの各専門部会

目的
 意
 (どんな状態にしたいか)
 野菜花きの推進する園芸品目の多様化する品種に対して、当市での適合性、生産性等の試験栽培を行い、優良品種の選定による販売強化を支援する。りんどう農家がなくならないようにする。セルリー、パセリのオリジナル品種を絶えることのないように継承していく。

手段・方法
 (どうやって)
 優良品種等の選定のための試験栽培委託。
 りんどう優良苗の栽培及び販売の委託。
 JA信州諏訪の各事業に対する助成。

A	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの					最終目標値
			活動指標	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
			1	優良品種等の試験栽培実施品目数	試験実施品目数	品目		9
			2					
			3					
			変更履歴					
A	N	評価指標の作成	成果・効果は何？					最終目標値
			成果指標	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
			1	りんどう農家数	農家数	人		15
			2					
			変更履歴					

実	施	状	内	項	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
							2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
				事業費等(a)	円		8,853,000	9,818,000				
				国庫支出金	円							
				県支出金	円		467,000	650,000				
				地方債	円							
				その他特定財源	円		233,750	325,000				
				一般財源	円		8,152,250	8,843,000				
実	施	状	内	活動指標	試験実施品目数	目標	品目	9	9			
						実績	品目	9				
					達成率	%	100.00	-	-	-		
					-	目標	-					
						実績	-					
					達成率	%	-	-	-	-		
-	目標	-										
	実績	-										
達成率	%	-	-	-	-							
D	O	成果指標	農家数	目標	人	15	15					
				実績	人	15	14					
				達成率	%	100.00	93.33	-	-			
				目標	-							
実績	-											
達成率	%	-	-	-	-							
				備考								

事務事業名	園芸振興事業	事業期間	~	年度	係内番号	04
担当部署	産業経済部	農林課	農政係	連絡先	403	

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中 評 価 課長評価日	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化				
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)				
	翌年度成果 方向性				
	コスト				

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事後 評価 価値 (CHECK)	<p>変果動指要標因分)</p> <p>苗を供給することで生産者の負担を軽減し、生産者数の維持につながった。</p>				
	<p>総合評価</p> <p>成果</p> <p>苗の提供による改植面積は、33a(H29),23a(H30),34a(H31)と堅実に維持されている。大根・セルリーダニ防除薬剤・トルコキキョウでそれぞれ1つずつ導入されるものが試験で確認された。</p> <p>課題</p> <p>リンドウは栽培技術が難しく新規就農者などには進めづらい。生産者の負担の大きい育苗について、優良品種の苗を安定供給することは引き続き必要。</p>				
改革・改善の方向性(ACIT)	<p>翌年度成果</p> <p>現状維持</p> <p>コスト</p> <p>現状維持</p> <p>改及成果やコストの方向性の内容</p> <p>策ひ容</p> <p>成果について、農家数ではなく改植面積として、リンドウの作付面積を維持・再興を確認していく。また、JAと連携しリンドウの作付を勧めていく。 パセリについて、泉野系と諏訪統一品種から前年度の試験結果の指導を参考に農家さんは作っている。次年度は「優良品種選定」ではなく「品種比較」として進めていく。</p>				

作成担当者	池上 卓弥・小林 陽一				
最終評価責任者	宮坂 智一				
最終評価年月日	2019年5月17日				